

神楽通信

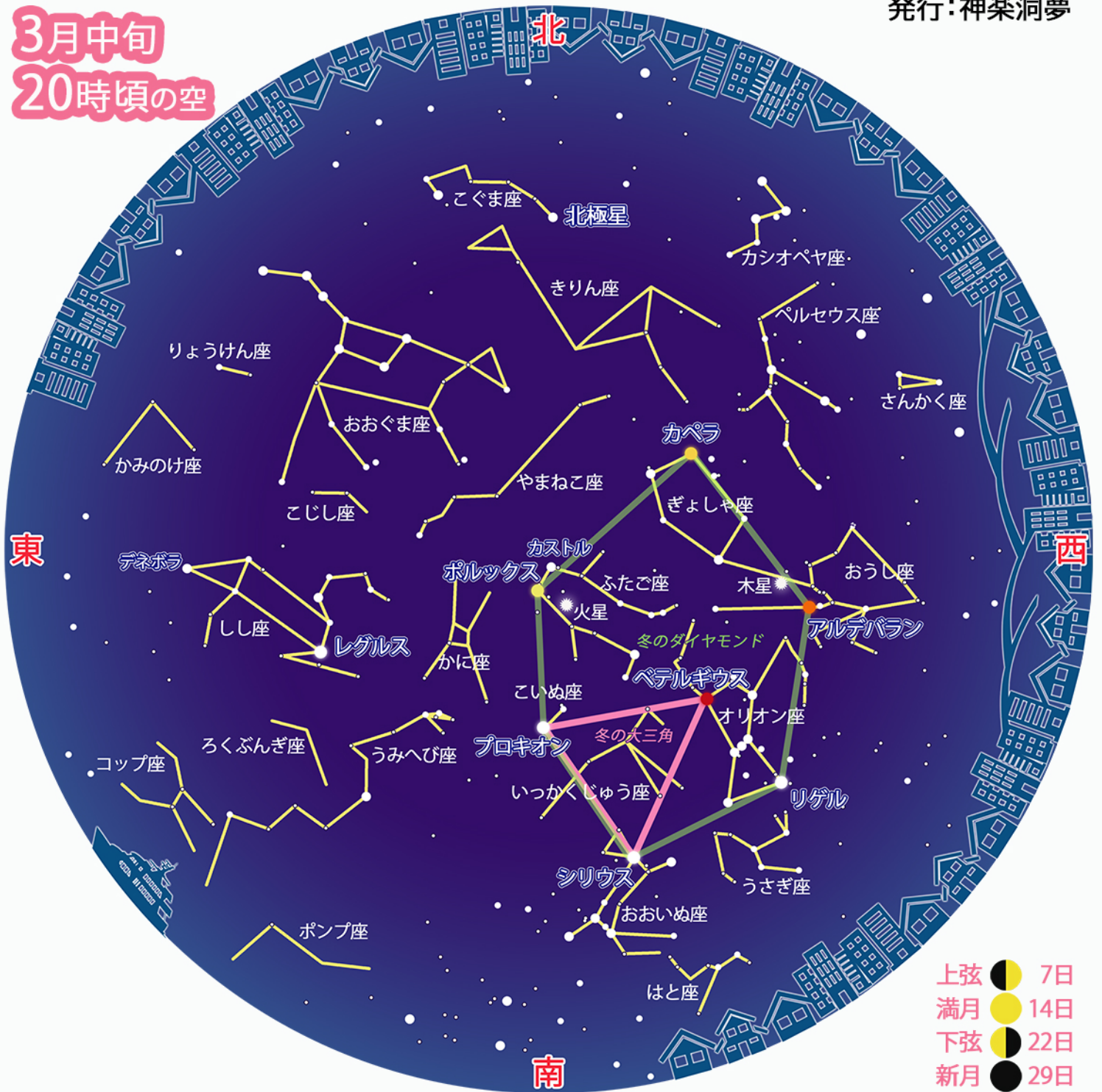
No.109

2025年

3月号

発行:神楽洞夢

3月中旬
20時頃の空



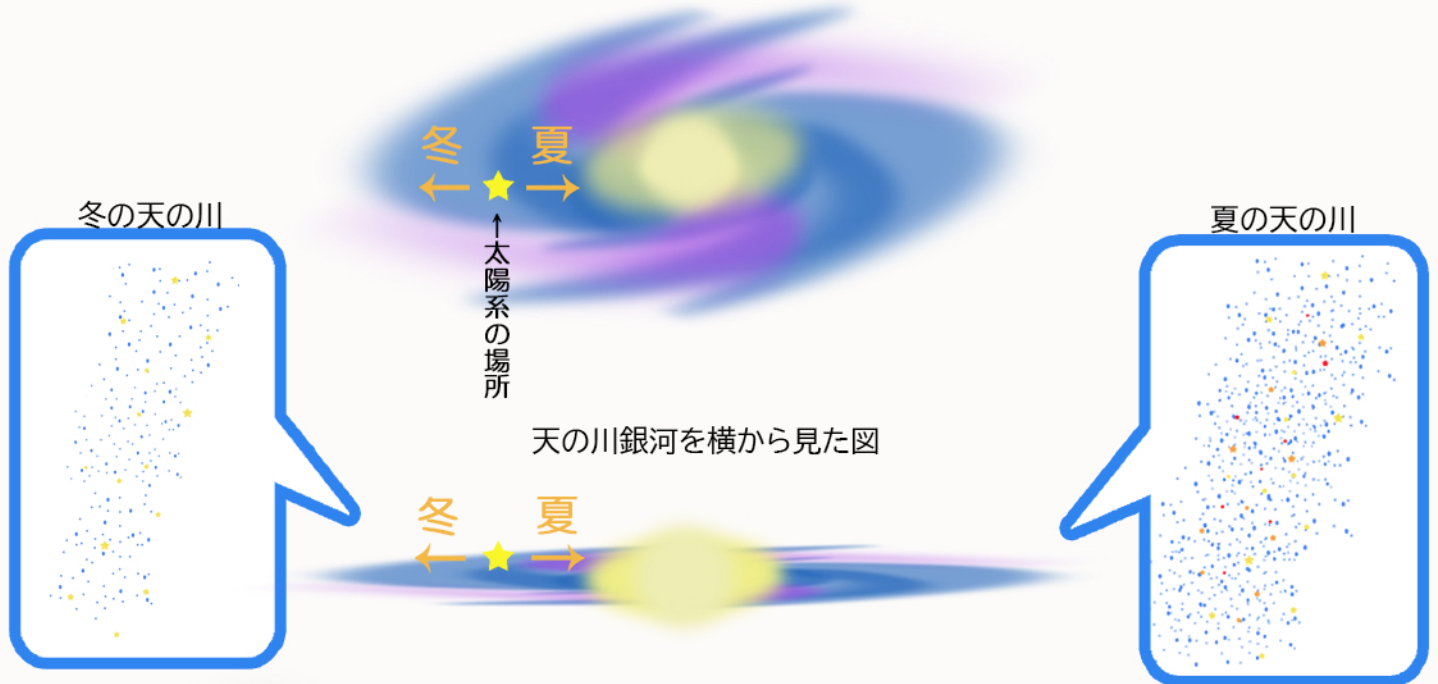
3月になると東の空から春の星座「しし座」が昇ってきます。しし座の1等星レグルスが春の訪れを教えてくれているように見えますが、南から西の空にはまだまだ冬の星たちが煌びやかに空を彩っています。今年は、ふたご座のポルックスの近くに「火星」、おうし座のアルデバランの近くに「木星」が輝いて目印となり、「冬のダイヤモンド」を描く星たちがいつもより探しやすくなっています。

「天の川は夏以外にも見える!？」

夏に満天の星を見に行くと、天の川も一緒に探したくなったりしませんか？プラネタリウムでも夏に天の川のお話をよくしますが、それは夏になると天の川が見やすくなるからです。しかし夏以外でも天の川は見るすることができます。

天の川の正体は私たちが住んでいる銀河(天の川銀河)の一部で、天の川銀河を中から見た姿です。夏に見える天の川は銀河の中心部分で、たくさん星が集まっているので濃く、1年の中で1番見やすいとされています。秋から冬にかけては夏に見えている銀河の中心方向から向きが変わりますが、そこに天の川がないわけではありません。夏に比べると星の数が少ないため、より薄い光にはなりますが、天気や場所の条件が良ければ冬でも見るすることができます。

天の川銀河を上から見た図



天の川銀河を横から見た図

「春の夜空は宇宙の窓」

天の川銀河の中心の反対側を見ているのが冬の空ですが、春の空は銀河に対して垂直の方向を向いているので星があまり見えません。少し寂しい感じもしますが、その代わりに、天の川銀河の星々にさえぎられることなく、銀河の外の世界を覗くことができるのです。そのため春の空は「宇宙の窓」と言われています。遠くの銀河を望遠鏡や双眼鏡で覗くチャンスです。春は、遠い宇宙を夜空で味わってみてください。

